

携帯メールにおける断り表現

金楨憲*

junghunkim2121@yahoo.co.kr

崔淑伊**

jc90000@hanmail.net

＜目次＞

- | | |
|--------------|----------|
| 1. はじめに | 4. 相手の居所 |
| 2. 先行研究の検討 | 5. おわりに |
| 3. 断り表現の意味類型 | |

主題語: 携帯メール(Text messages)、意志(Volition)、意味公式(Semantic Formulas)、意味類型(Semantic Type)、断り表現(Refusal Expressions)

1. はじめに

日頃の生活の中では断らなければならない場合が頻繁に起りうる。その断らなければならない状況は依頼やすすめのような場合であり、その時、頭の中では相手との関係性を考慮に入れ、如何に断るかを考える。しかし、断る側が依頼またはすすめを予測していない場合、急に依頼やすすめを受けるとどのように断れば良いか慌てしまう。もし、断ったとしても「ちょっと...」のような言い切らない曖昧な表現や「できない」「無理です」といった強い表現がつい口から出てしまいがちであろう。このような断る側の断り表現は依頼する側やすすめる側の気分を損なわせるかもしれないし、依頼やすすめに対する断る側の信頼を失わせる恐れもありうる。断る側は断ることによって失うかもしれない自分の良いイメージがマイナスイメージにならないように様々な努力をする。例えば、「すみません」「ごめんなさい」のような謝罪を先、または、断った後に入れることがある。もしくは、依頼やすす

* 韓国外国語大学校 講師

** 韓国外国語大学校 講師, 교신저자

1) 「断り」の方略(森山卓良1990)、断り方(カノックワン・ラオハブナキット1995)、断り表現のストラテジー(金楨憲2009,2011)などと研究者によりその呼び方は多様である。

めに応じたいが、状況上、応じられない場合は「いいですね、しかし予定があつて」「できれば一緒にしたいのですが」のような表現を使ったりする。これらは断られる側の気分を損なわないようにして、相手の自分に対する信頼を維持し、損ないそうになる信頼を守れるようにする表現である。このような断り表現ストラテジーは人間関係における信頼を守ることをもねらっている。よって、本稿では携帯メールにおける断り表現を類型化する。また、その断り表現を韓国人日本語話者と日本人日本語話者に日本語に書いてもらい、それぞれの違いを探る。これは両国における断り方の異同が表現にどのように反映されているのかを考察して断り表現のあり方を提示するためである。このように分析した結果は韓国人日本語学習者の自然な日本語表現の習得に役立つと考える。

2. 先行研究の検討

携帯メールでのやりとりでは、目の前に相手がいなく、表情がみられない、その上、即答しなくてもよい点で、断りへの負担も軽くなる。このように負担が軽くなるのを、三宅和子(2001:18)においては距離感²⁾と密室性³⁾が働いているからだ述べている。また、橋本良明(2001:23)では「会食の誘いや言いづらい依頼ごとに対して、相手の反応が即時にわかってしまうことへの漠然とした不安感から音声通話を避けるケースもあるだろう」と述べている。田中ゆかり(2001:35)においては大学生の「携帯メール調査」で「あいての反応を直接感じなくてよい」との理由を挙げている。

上述から分かるように断りの遂行の場合、相手に面と向って断りを言うのはかなり難しいことであり、目の前に相手がいなくても音声通話での断りもまた話での表情が相手に見られないだけで、断ることへの難しさはさほど差はないと考えいことが、携帯メールを用いると相手との距離をおくので互いの負担を減らすことができる。

確かに携帯メールにおいては互いの表情を見ることができないため、相手の反応を直感的に感じることもできなく、即時に断る側の心境を相手を読み取ってしまうことへの不安感も減る。しかし、文字だけでは伝えたい本当の気持を伝えられない不便さがある。よっ

2) 距離感：ポケベルとケータイ・メールには文字メディア特有の距離感がある。音声通話には耳で相手の声が聞こえてくる肉感的な距離の近さがある。

3) 密室性：ポケベルとケータイ・メールでは誰にも知られないで相手との空間を作り上げ、コミュニケーションができる。周りの状況を考えなくてもいい。音声通話の密室性はそれに比べれば弱い。

て、よく用いられるのが「(へへ)」のような顔文字や「😊」のような絵文字などである。あるいは、字の大きさを変えたり、色を変えたりする。このような方法で相手への配慮を示したり、断りへの申し訳なさを表したりする。例えば次のように述べている。

휴대폰은 그 보급률이 97%를 넘으며 개인의 개성이나 감성을 표현하는 대표적인 디지털 미디어로 자리 잡고 있다. 휴대폰의 문자메시지는 친밀감을 형성하고 감정을 표현하는 매체로 개인의 사적 커뮤니케이션 채널로 활용되고 있으며 대인 관계를 위한 일상적인 커뮤니케이션 수단으로 발전하고 있다⁴⁾

(日本語訳：携帯電話の普及率は97%をこえており、個人の個性、又は感性を表現する代表的デジタルメディアとして位置している。携帯の文字メッセージは親密感をつくり、感情を表現する媒体として、個人の私的コミュニケーションチャンネルとして活用しており、対人関係のための日常的コミュニケーションの手段として発展しつつある。)

また、文字メッセージの感情伝達の役割と誤り、字形の感情表現の可能可否、といった3つの要因にわけて分析し、感情伝達の役割が81%をも示すという結果を出している。

松田美佐(2008:43)では『自分らしさ』の表現』として顔文字や絵文字を文中に挟み込むと言い、「こういった表記は文字情報だけでは伝わらないメッセージの『文脈』を伝えるものである」としている。

最後に、中国人日本語学習者の間で行われる「誘い」に対する断り表現の「工夫」を携帯メールを用いて調査し、誘い側の「工夫」と断る側の「工夫」を比較し、誘いの受け止めと断りの受け止めを検討している研究も見られる。⁵⁾

ここでは、韓国人日本語学習者(以下、韓国人話者とする)における断り表現を日本人話者のものと比較対照し、その類似点や相違点を見出し、断り表現の実例を示す。

3. 断り表現の意味類型

韓国人協力者の誘う側と誘われる側の関係はみんな同じ大学(S大学)の学生、同じ年齢であり、親しい関係である。誘う側、韓国人4人(韓国人男性2人(以下KM①、KM②とする)、

4) 고예원, 손은미, 이현주(2006) 参考文献参照。

5) 李錦淑(2010) 参考文献参照。

韓国人女性2人(以下KF①、KF②とする))にして、各々友達5人(計20人)に「今日、映画見に行かない?」と誘いのメールを送ってもらう。その内容は以下に示す。

誘い側	断り側
女性KF①	⇔ 女性KF(1,2,3,4,5)
女性KF②	⇔ 男性KM(1,2,3,4,5)
男性KM①	⇔ 女性KF(6,7,8,9,10)
男性KM②	⇔ 男性KM(6,7,8,9,10)

本調査では注6)に提示してある典型的な日本語訳の表現を中心に意味公式というものを利用して考察を進める。また、注7)韓国語を、韓国人話者と日本人話者にできるだけ韓国語に引きずられないようにした上で日本語に訳してもらい、それぞれの表現を分析する。⁶⁾

ここで言う意味公式とは生駒・志村(1993)が「断り」の構成を意味別に分類したものであり、以下のようなものである。

[表1] 生駒・志村(1993)による「断り」を構成する意味公式の分類

I. 直接的な断り

- A・遂行動詞を使う断り(例:「お断りします」)
- B・遂行動詞を使わない断り
 - 1・「いいえ」(例:「いや」)
 - 2・やる気や能力の否定(「…できません」「…しません」「そうは思いません」)

II. 間接的な断り

- A・謝罪・残念な気持ち(例:「申し訳ありません」「残念です」)
- B・願望(例:「お手伝いできればよいのですが…」)
- C・言い訳理由(例:「頭痛がするので…」「都合がわるいので」)
- D・代案の提示
 - 1・Yの代わりにXができる(例:「私ならこうする」→「私ならこちらの方がいい」)
 - 2・YのかわりにXをしたら? (例:「他の人に聞いたら?」)
- E・将来や過去になら承知したという条件提示(例:「もっと早く言ってくれたら…したのに」)
- F・将来承知するという約束(例:「今度は…します」「…と約束します」)
- G・信念(例:「友達と取引はしないことにしているのだ」)

6) pp.6-8の例1)～例15)にある日本語訳(筆者;金1)がしたものであり、まず、日本語が分かる韓国人(筆者2;崔)に見てもらい、次に韓国語が分かる日本人(嵯峨山裕子)に、最後に韓国語が分からない日本人(山下大輔)にみてもらう段階を経て、自然さに注意をはらった。というのはまず、3. においては一番、典型的な日本語訳を意味公式から分析し、典型的な表現のあり方を探り、ひいては韓国人話者と日本人話者の表現を比較するためである。

- H・決り文句(例:「形あるものは壊れるものさ」)
- I・相手を思い止ませようという試み
- 1・脅し / 依頼者にとって好ましくない結末・結果の陳述
(例:「文法を無視して会話ばかりやっていたら後で困りますよ」)
 - 2・罪の意識を相手に持たせる(例:「行かないと家内が怒ります」)
 - 3・依頼・依頼者等の批判(否定的な感情や意見)(例:「そりゃひどい考えだ」)
 - 4・相手の共感に訴える(例:「わかってくれないかね」)
 - 5・相手の肩の荷を下ろす(例:「心配しないで」)
 - 6・自己防衛(例:「できるだけことはやっているのですが…」)
- J・断りの働きをする承諾
- 1・あいまいな答え
 - 2・熱意のなさ
- K・回避
- 1・非言語的
 - a・沈黙 b・躊躇 c・何もしない d・その場から離れる
 - 2・言語的
 - a・話題の切り替え b・冗談 c・依頼の一部の繰り返し(例:「月曜日ですか?」)
 - d・延期(例:「考えておきます」)
 - e・言葉をにごす(例:「うーんわからないな」「それは困りましたねえ」)
- 断りへの付随物(それ一つでは成り立たず、断りとして働かない、付随的な発言)
- 1・好意的な反応の表明(例:「それはいい考えだが…」「そうしたいのは山々だが…」)
 - 2・共感(例:「あなたが難しい状況にいるのはよくわかりますが…」)
 - 3・間を持たせる表現(例:「えーとそうだなあ」「うーん」「あの一」)
 - 4・感謝 / 謝意(例:「大変有り難い話ですが…」「非常に光栄ですが…」)

ここでは上の表で提示してある意味公式の一部分を用いて断り表現が両言語にどのように現れているのか、使われている表現から断り表現の類型を調べる。

以下は生駒・志村(1993)を参考にし、分類したもので、生駒・志村(1993)の意味公式の内容以外に見られる「代案要求」を加えた。同じ意味公式が二つ並んでいる場合、一つとカウントした。

例1) KF1→KF① 앓.이런.....ㅠㅠ 나 다른약속있는데~미안 ㅠㅠ 다음에 보자..

(あつ、そんな.....(涙)(私)他の約束があつて~ごめん(涙)今度、会おう)

理由 +謝罪 +代案

例2) KF2→KF① 00야ㅠㅠ나 회식이 있넹 ㅋㅋㅋ 미안 ㅋㅋ 다음에 예약하구가장

((名前)(涙)(私)会食なの(笑)ごめん(笑)今度、予約していこうね)

理由 +謝罪 +代案

例3) KF3→KF① 00야ㅠㅠ(나) 배탈났어ㅠㅠ 어디를 못나가ㅠㅠ 미안해

((名前)(涙)(私)お腹こわしたの(涙)どこにもいけないの(涙)ごめんね)

理由 +謝罪

例4) KF4→KF① 영화보면 서로 말도 못하고 지루하잖나ㅋㅋㅋㅋㅋㅋ 그냥 수다떨자.

(映画だとしゃべれないじゃん(笑)じゃおしゃべりでもしようよ)

理由 +代案提示

例5) KF5→KF① 음...나 영화별로 않좋아해서ㅠ 답에 맛있는 것 먹자!!!!

(うん...(私) 映画あまり好きじゃないけど(涙) 今度、美味しいもの食べようね!!!!)

理由 +代案提示

例6) KM1→KF② 죄송해요...오늘. 약속이있어서요...

(わるいね..今日 約束があつて...)

謝罪 +理由

例7) KM2→KF② 나 오늘 8시반에 끝나는데;;ㅏㅏㅏ

(おれ 今日 8時半に(バイト)おわるけど(汗)(涙))

理由

例8) KM3→KF② 왜 영화냐 아줌마님 일바빠에.

(きゅうに映画か おばさん バイト忙しいよ)

非難 +理由

例9) KM4→KF② 헉 하이?? 아 수원인데 ㅠㅠ

(あれ はい?? あ スウォンだけど(涙))

理由

例10) KM5→KF② 우리 영화 말고 다른 것 하면 안되??

(映画じゃなくて他のことしちゃだめ??)

代案要求

例11) KF6→KM① 조금만 일찍 연락 주지.. ㅠㅠ 나 밥도 다먹고 폐인이야.. ㅋㅋㅋㅋㅋ
(もうちょっと早く連絡くれたら..(涙)私ごはん食べ過ぎて苦しい..(笑))

理由

例12) KF7→KM① 나 오랜만에 고향집내려와서.. ㅋ 만날 수가 없네... ㅌㅌ
(私久しぶりに実家に帰ってるけど..(笑)会えないのよ...(涙))

理由

KF8 응답 없음(応答なし)

KF9 응답 없음(応答なし)

KF10 응답 없음(応答なし)

例13) KM6→KM② 씨 ㄹ 학원이라공
(ちくしょう 学院だよ)

非難 +理由

例14) KM7→KM② 장난까냐 나지금 동탄에 사는데!!!
(ふざけてんの おれいま ドンタンに住んでるけど!!!)

非難 +理由

例15) KM8→KM② 나 선약있어서 아니아니아니되오!!
(おれ 先約があつてだめだめだめだよ!!)

理由 +直接

KM9 응답 없음(応答なし)

KM10 응답 없음(応答なし)

韓国語の日本語訳に見られる表現を意味公式から見て以下の表に示す。

[表2] 意味公式の種類

	意味公式	回数	例番号
1	理由+謝罪+代案提示	2	1,2
2	理由+謝罪 又 謝罪+理由	2	3,6
3	理由+代案提示	2	4,5
4	非難+理由	3	8,12,13,14
5	代案要求	1	10
7	理由	3	7,9,11
8	理由 +直接	1	15
9	無応答	5	F8,F9,F10→M① M9,M10→M②

断る際、断りたい心境は大きく二つに分けられる。能力、状況上、無理な場合と応じたくない場合である。能力や状況上、無理な場合で、さそいに応じられないというのが13件あり、すすめに応じたくない場合つまり、KF4の「음...나 영화별로 앓 좋아해서ㄸ 답에 맞있는 것 먹자!!!!(うん...私 映画あまり好きじゃないけどㄸ 今度、美味しいもの食べよう!!!!)」のように自分の好みを正直に表明するのが1件見られた。また、今回の調査のデータでは「理由」「謝罪」「代案提示」「代案要求」「無応答」といった表現が見られた。そのうち、一番、多く見られたのは「理由」で総14件である。また、「無応答」の表現も見られる。それぞれ意味公式にあてはめてみると[表2]のように、9つに類型化されることが分かる。

特に、「代案提示」は断りを言う側が損ないような人間関係を少しでも取り戻すための表現である。しかし、例10)では「우리 영화 말고 다른 것 하면 안되??(映画じゃなく他のことしちゃだめ??)」のような「代案要求」は断り側が自分の意思をはっきり示して、相手に他のことを提示するように促すという強い意志を表す表現である。

20人に携帯で文字メールを送り、そのうち5人からは応答を得られなかった。これは文字メールを確認しなかったとも考えられるが、本調査ではさそいに乗り気ではないという意味の表明だと捉え、さそいを見捨てられ、断られたとカウントする。つまり、「嫌だ」「無理だ」というふうに直接に断ることより、誘い側を袖にしている不真面目な応答であると判断する。

特におもしろいのは「KF→KF①」、「KF→KM①」、「KM→KF②」の場合、さそい側に対して非難や叱責や悪口などは見られないが、「KM→KM②」の場合には、例13)の「悪口」と例14)の「誹謗」と例15)の最近、流行りの「ギャグのマネ」を用いたバラエティーな断り表現が

見られた。

今回の調査のデータを基に「理由」「謝罪」「代案提示」「代案要求」「無応答」の5項目をとりあげて分析を行う。以下に、意味公式の分類および意味機能について示す。

[表3] 意味公式の分類

意味公式	意味機能	実例
「謝罪」	相手の望みに応じられないことへの詫び	すみません /죄송해요
「理由」	相手の望みに応じられない状況を説明	他に約束がある /다른 약속이 있어
「代案提示」	相手に何かしたいことを自ら提示する	今度、美味しいもの食べよう /다음에 맛있는 것 먹자
「代案要求」	相手に他のことを提示するように促す	他のことしちゃだめ? /다른거 하면 안되?
「無応答」	相手に返事しない	—

3.1 謝罪

例1)では「앗.이런(あっ、そんな.....)」の遺憾を表明して、断ろうとする意図を前もって匂わしていることと同時に、さそいに応じてあげたいが、応じられない何らかの理由があり、相手の望みどおりにしてあげられないことへの申し訳なさをたえようとしていることがわかる。また、「다른 약속 있는데(他の約束があつて)」では具体的に断らなければならない理由を述べて相手に断りの意を伝えている。「ごめん(涙)(미안ㅠㅠ)」とはっきりと謝罪を言い、断りを遂行させている。このように遺憾表明→理由→謝罪の順に最大限、相手の面子をつぶさずを守ろうとしているのが見られ、もしかすると損なわれるかもしれない人間関係の修復のため「다음에보자(今度、会おう)」という代案を提示して人間関係の修復に努力していることがわかる。

例1)の「조금만 일찍 연락 주지.. ㅠㅠ 나 밥도 다먹고 पे인이야. ㅋㅋㅋㅋㅋ(もうちょっと早く連絡くれたら..(涙)私ごはん食べ過ぎて苦しい..(笑))」からは明示的な断り表現は表明されていないが、例1)と同じく遺憾表明を前に置き、断ろうとする意図を表していると同時に、さそいに応じてあげたいが、応じられない何らかの理由があり、相手の望みどおり

にしてあげられないことへの申し訳なさをつたえようとしていることがわかる。また、「밥도 다먹고 폐인이야(ごはん食べ過ぎて苦しい)」では相手を思い止まらせようという試みで、相手の共感に訴えていることがわかる。

例1)の「앗.이런.....(あっ、そんな.....)」と例11)の「조금만 일찍 연락 주지..(もうちょっと早く連絡くれたら..)」では遺憾の表明をし、その典型的表現から逸脱した謝罪表現を用いていることが分かる。これらの表現は明示的な謝罪表現ではなく、表面的には謝罪が現れていないが、相手に対する申し訳ない気持を表している謝罪と考えられる。

3.2 理由、代案提示

例4)の「음, 영화 보면 서로 말도 못하잖나ㅋㅋㅋㅋ 그냥수다 떨자(映画だとしゃべれないじゃん)(笑)じゃおしゃべりでもしようよ)」では、映画を見ることには賛成していないが、会うことには賛成している。つまり、「그냥수다떨자(おしゃべりでもしようよ)」と代案を提示し、映画をみることに断りを表明している。もしかすると、「映画をみないから会わない」と思い込んでしまうかもしれない、さそい側に対する配慮として「그냥수다떨자(おしゃべりでもしようよ)」を用いている。映画を見に行くことには応じられないが、せっかくさそってくれた相手に好感をもっていることを伝えようとしている。

例5)では「나영화 별로 안 좋아해서(映画あまり好きじゃないけど)」と言い、自分の好みを正直に表明してわかりやすく、断りを伝えていることがわかる。このような断りは相手の面子をつぶすかもしれない可能性が非常に高いと言える。しかし、ここでの協力者の親の関係から考えると率直に断るのがかえってさそい側にプラスイメージとしてうけいれてもらえるかもしれない。また、「답에 맛있는 것 먹자!!!!」は親しい間で使う表現であり、さそい側への断りの申し訳ない気持を表す代案として使っていることが分かる。

韓国と日本で、仲の悪い人との会食でよく仲直りをしたりするケースが多い。そのようなねらいがここでも見られた。

例4)と例5)ではさそい側にまず、理由を述べて断わりの意を充分に伝えたいうえで、代案を提示し、相手との人間関係に気を配っていることがわかる。⁷⁾

7) 代案提示：断る側が直接代案を出す。

3.3 代案要求

例10)は例5)の「나 영화 별로 안 좋아해서(映画あまり好きじゃないけど)」のような直接的な表現ではないが、「우리 영화 말고(映画じゃなくて)」を言い、映画を観ることに否定的であることを剥き出しにさそい側へ伝えている。また、「다른 것 하면 안되??(他のことしちゃダメ??)」は映画の他に何かをするのであれば一緒にできるということをつたえている。前述したように断り側が逆に誘い側に代案を「要求」しているのは、断り側が自分の意思をはっきりして、すすめ側と会いたいという強い意志が現れているということがうかがえる。代案は断わりを言う側が相手との距離を維持しながら、人間関係をうまくするため、断りの意をつたえた上での表現である。しかしながら、今回の場合は、断りを言う側がさそい側に代案を要求している。剥き出しの断り表現に代案要求まですることはさそい側と断り側、二人の関係が親しい関係であるからこそ可能であると考えられる。⁸⁾

3.4 無応答

無応答はさそいや依頼に応じたくないということを返事をしないということによって断りの意を表す。つまり、断りにくい場合に講じる方法である。この無応答こそ携帯メールにおいて、断る場合に最も大きな役割をしていると言える。その長所は、後になって、さそいをしてくれた人に会って「なぜ返事をくれなかったか」と聞かれた時、「届いてない」または「確認できなかった」といくらでも言い訳ができるのと、目の前で返事しなくてもいいことから断りへの負担も軽くなるためである。⁹⁾

次はこのような無応答の場合を除いて、書かれている日本語を中心により文法的な分析を行う。

3.5 実例分析

例1)から例15)までの韓国語を韓国人話者と日本人話者に日本語で書いてもらい(注6で言及)、各々、断り表現の特徴を見ることによって両国の言語行動などが窺えると思う。

8) 代案要求：断る側の要求により、断られた側が代案を出すようになること。

9) 無応答：Brown&Levinson(1978)は「その事柄がフェイスを脅かす可能性が非常に高いので、あえてそれを言わない」と述べている(ジェニー・トマス(1998)による)。

例1)において韓国人話者には接続助詞、終助詞が在るが、日本人話者には接続助辞や終助詞だけではなく「約束があった」のようなアスペクト表現があるということで、時間に追われている側の状況をより具体的に提示しようとしている。

例2)の韓国人話者のみが「あつて」という助詞を終助詞的に使っているが、日本人話者は「あるんだ」という説明表現をしている。例1)は両言語とも、代案を提示しているため例1)より親しさが感じられる。

例3)の韓国人話者には「行けない」以外に「行かない」という意志表現が登場しているが、日本人話者には「行けない」「出られない」のように可能表現のみが表されている。

例4)の韓国人話者は仮定表現が、日本人話者には仮定表現だけではなく「映画なら」という主題表現があるということから日本語は名詞中心的な表現であることが分かる。

例5)の韓国人話者は「おいしい」のように具体的な形容詞を使っており、日本人話者は具体的な形容詞を省いている。

例6)の韓国人話者は「あります」のように宣言をすることによって意志を強く表現しているが、日本人話者は「あるので」のように終助詞で表しているため柔らかい。

例7)の韓国人話者は主語を言っているが、日本人話者が主語を50%しか使わないのは日本人話者はやはり意志性の弱い表現を好んでいるようである。

例8)の韓国人話者は終助詞を使わない場合が多いが、日本人話者がみんな終助詞を使うということは表現の違いというより母国語話者であることに起因する自然な表現の現われであると考えられる。

例9)の日本人話者は50%以上、「今」という語を使い、具体的な状況が感じられるアスペクト表現をしているが、韓国人話者には現れていない。

例10)の日本人話者は「～たい」を使って希望を表す表現をしており、特に韓国人話者は聞き手の意見を確認している表現が主に見られるため、聞き手には答えるべき負担が生じるようになると思われる。

例11)では両方とも「～くれる」を使った授受表現が見られるが、日本人話者は仮定表現が、韓国人話者は命令表現があるということは、韓国人話者の方で意志性の強い表現をするということが分かる。¹⁰⁾

例12)では両方とも理由表現が挙げられるが、特に日本人話者においては「んだ」という説明のモダリティー表現があるため、より具体的な表現となる。

10) 崔淑伊(2010)、(2010)、(2011)、(2011)、(2011)においては意志という観点から言語現象を探っており、意志というものが文さしきや表現意図を表すのに働いているということを述べている。

例13)の韓国人話者は「～だ」という断定を表す表現が多く、日本人話者は断定以外に「んで」と「てば」という理由表現も共に使っている。

例14)の韓国人話者は「のに」という助詞を終助詞的に使っており、相手に対する残念な気持を表している。両方とも「のに」を使っているが、韓国人話者の方が多く使っている。

例15)においては両方とも「から」「ので」といった理由表現を使っているが、特に日本人話者の場合は理由表現の代わりに終助詞「の」を使って因果関係といった固い表現をさけていることが見られる。

[表4] 韓国人話者と日本人話者における断り表現の代表的な特徴

韓国人話者		日本人話者	
意志表現	例3)行かない	アспект表現	例1)約束があった
宣言表現	例6)あります	主題表現	例4)映画なら
命令表現	例11)してくれよ	説明表現	例12)帰ってきたんだ

韓国人話者と日本人話者における断り表現の代表的な特徴として、挙げられるのは、韓国人話者は「命令」、「宣言」のように意志の強い表現を用いている。一方、日本人話者は「アспект」、「説明」のように状況を親切に提示し、相手への配慮が感じられる表現をしている。日本人話者の方がより柔らかい断り表現を用いるということである。一方、韓国人話者の場合、断る際、命令のように話し手の意志を強く表すというのは直接発話志向的な傾向を示すためであろう。これは、意志というのが断りの言語行動に働いていることの現れであろう。

また、このようなメールによる分析は文字化されているため、多様な資料が得られ、音声による分析より容易な面もある。

4. 相手の居所

携帯メールの断りは相手が目の前にいないため、即答しなくてはならない電話での断りよりも負担が軽い。したがって、相手の居所という条件は断る心境に関わってくると思われる。

一般的な断りの場面は相手が目の前にいて、相手にすぐ承諾か断りを言わなければならないケースであり、承諾の際には相手にとっても自分にとっても問題にならないだろう。

また、断りを言う場合には顔の表情までも相手が見ているので非常に気を使う。たとえば、急な依頼に笑いながら断りをいったり、困った顔で断りを言ったりする。そのとき、どんなに丁寧に断ったとしても顔の表情によっては相手の断りの受け方は違うこともあるだろう。それほど断りを遂行することはたやすいものではない。

しかし、携帯の普及がかなり進んでいる今日、殆んどの人が携帯電話を手に入れている。携帯メールでの依頼や頼みやすさ、それに対する承諾や断りを私たちは日頃、行っている。よって、携帯メールによる断り、つまり、その場での断りではなく、目の前に相手がい
ない場合の断りについて探ってみた。携帯メールの利点としては目の前に相手がいなく、表情がみられない、その上、即答しなくてもよいことなどが挙げられ、承諾は言うまでもなく、断りへの負担も軽くなる。音声通話のような会話に比べてもやはり断りへの負担は減ると考えられる。

本稿で調べたところ、断る際、断りたい心境は大きく二つに分けられる。能力、状況上、無理な場合と応じたくない場合である。本稿ではほとんど前者の場合が多く見られ、前者の場合、断りを受け止めてくれる可能性が高くなると思われる。しかし、後者の場合には自分の信頼を失わずに断る老練な技術が必要であると考えられる。たとえば、本稿の調査においてもすすめ側に応じたくない場合「今度おいしい物食べに行こう」のような提案提示を用いて断ることが分かる。

このように依頼、すすめなどの言語行動は予測しにくいので、急に依頼されたり、すすめられたりすると承諾か断るかの立場に立たされる。その時、予定や約束などがあれば言い方に気をつけ、「すみません、約束がありますので」のように相手が目上の人でなくても丁寧体を用いて断ることもある。そうすれば依頼側や勧め側はなぜ断るかを理解してくれる。しかし、予定や約束もないにもかかわらず、すすめに応じたくない場合、断ることは非常に難しい。如何に断れば相手の気分を損なわず、しかも相手に対する自分の信頼を守り、かつ相手の面子を保つように断るかを工夫するのである。ここで現れた表現の色々はこのような状況を反映したものであり、相手の居所が重要な手がかりとなる。

5. おわりに

意味公式の一部分を用いて断り表現が両言語にどのように現れているかを、携帯メール

で得られた表現から類型を調べた。意味公式にあてはめてみると、「理由+謝罪+代案提示」、「理由+謝罪」又「謝罪+理由」、「理由+代案提示」、「非難+理由」、「代案要求」、「理由」、「理由+直接」、「無応答」の9つに類型化されることが分かる。今回の調査のデータを基に「理由」「謝罪」「代案提示」「代案要求」「無応答」といった5項目の表現のうち、一番、多く見られるのは「理由」で総14件である。また、「無応答」「代案提示」「謝罪」「代案要求」の表現が見られる。「代案提示」は断りを言う側が損ないそうな人間関係を少しでも取り戻すための表現である。「代案要求」は断り側が自分の意思をはっきり示して、相手に他のことを提示するように促すという強い意志を表す表現である。

また、携帯メールで得られたデータを韓国人話者と日本人話者に日本語で訳してもらい、その表現による分析も試みた。韓国人話者と日本人話者における日本語の断り表現の代表的な特徴は、日本人話者は「アスペクト」、「説明」のように状況を親切に提示し、相手への配慮表現をしているが、韓国人話者は「命令」、「宣言」のように意志の強い表現をするということである。これは、意志というのが断りの言語行動に働いていることの現れであろう。特に韓国人話者の場合、断る際、命令のように話し手の意志を強く表すというのは直接発話志向的な傾向を示すということである。

【参考文献】

- 고예원, 손은미, 이현주(2006) 「휴대폰 문자메시지의 효과적인 감정 표현을 위한 글꼴연구」 한국 디자인학회 발표자료 p.104
- 生駒智子・志村明彦(1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー:『断り』という発話行為について」『日本語教育』79号, pp.41-49
- カノックワン・ラオハブラナキット(1995) 「日本語学習者にみられる『断り』の表現—日本語母語話者と比べて—」『世界の日本語教育』pp.97-112
- 田中ゆかり(2001) 「大学生の携帯メール・コミュニケーション」『日本語学』大修館書店, p.35
- 橋本良明(2001) 「携帯メールの利用実態と使われ方—インターネットによるEメール利用との比較を中心に—」『日本語学』大修館書店, p.23
- 三宅和子(2001) 「ポケベルからケータイ・メールへ—歴史的変遷とその必然性—」『日本語学』大修館書店, p.18
- 松田美佐(2008) 「ケータイ/ウェブの表現スタイル」『言語』明治書院, p.43
- 森山卓良(1990) 「『断り』の方略—対人関係調整とコミュニケーション」『言語』vol.19
- ジェニー・トマス(著) 浅羽亮一(監修) 田中典子、津留崎毅、鶴田庸子、成瀬真理(訳)(1998) 『語用論入門—話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味—』研究社 p.191
- 金楨憲(2009) 「依頼における『断り表現』のストラテジー—韓国人日本語母語話者と日本語母語話者の1対1の自然談話から—」『日本近代学研究』第24輯 pp.41-56
- _____ (2011) 「『断り表現』における『察し』—韓国語母語話者を中心に—」『日本近代学研究』第32輯 pp.7-27

- 李錦淑(2010) 「日本語における『誘い』とそれに対する『断り』」—中国人日本語学習者同士による携帯メール
会話の分析を中心に—『日本文化研究』第35輯 pp.281-304
- 崔淑伊(2010) 「理由を表す「から、ので、で」に関する考察」『日語日文学研究』第74輯1卷
- _____(2010) 「文における意志性」『日本言語文化』17輯
- _____(2011) 「てもらう文における意志性」『日語日文学研究』第74輯1卷
- _____(2011) 「日本語の条件表現に関する一考察」『日語日文学研究』第50輯1卷
- _____(2011) 「韓国とのひかくからみた「～てやる」文の意志性」『日語日文学研究』第78輯1卷

논문투고일	: 2012년 03월	10일
심사개시일	: 2012년 03월	20일
1차 수정일	: 2012년 04월	10일
2차 수정일	: 2012년 04월	16일
게재확정일	: 2012년 04월	20일

 <要旨>

携帯メールにおける断り表現

本稿では携帯メールにおける断り表現を類型化させ、その断り表現を韓国人日本語話者と日本人日本語話者に日本語に書いてもらい、それぞれの違いを探ってみた。

意味公式の一部分を用いて断り表現が両言語にどのように現れているかを、携帯メールで得られた表現から類型を調べた。意味公式にあてはめてみるとように、「理由+謝罪+代案提示」、「理由+謝罪」又「謝罪+理由」、「理由+代案提示」、「非難+理由」、「代案要求」、「理由」、「理由 +直接」、「無応答」の九つに類型化されることが分かる。今回の調査のデータを基に「理由」「謝罪」「代案提示」「代案要求」「無応答」といった5項目の表現のうち、一番、多く見られるのは「理由」で総14件である。また、「無応答」「代案提示」「謝罪」「代案要求」の表現が見られる。「代案提示」は断りを言う側が損ないそのような人間関係を少しでも取り戻すための表現である。「代案要求」は断り側が自分の意思をはっきり示して、相手に他のことを提示するように促すという強い意志を表す表現である。

また、携帯メールで得られたデータを韓国人話者と日本人話者に日本語で訳してもらい、その表現による分析も試みた。韓国人話者と日本人話者における日本語の断り表現の代表的な特徴は、日本人話者は「アスペクト」、「説明」のように状況を親切に提示し、相手への配慮表現をしているが、韓国人話者は「命令」、「宣言」のように意志の強い表現をするということである。これは、意志というのが断りの言語行動に働いていることの現れであろう。特に韓国人話者の場合、断る際、命令のように話し手の意志を強く表すというのは直接発話志向的な傾向を示すということである。

このように分析した結果は韓国人日本語学習者の自然な日本語表現の習得に役立つと考えられる。

The Refusal Expressions in Text Messages

This study classifies the refusal expressions in text messages and compares the difference between native Japanese speakers and Korean Japanese learners.

The classifying in patterns are analyzed by the presentation of the refusal expressions both in Japanese and Korean through a part of the semantic formulas. As the patterns are applied into the semantic formulas, the nine different types have been found as below.

1. Reason + apology + presentation of an alternative plan
2. Reason + apology
3. apology + reason
4. Reason + presentation of an alternative plan
5. Blame + reason
6. Request of an alternative plan
7. Reason
8. Reason + Direct
9. No response

Among the five foundational components such as reason, apology, presentation of an alternative plan, request of an alternative plan and no response, reason appeared most frequently and it was 14 times. The expressions of no response, request of an alternative plan, apology and presentation of an alternative plan have been also found. Presentation of an alternative plan appeared in order to recover the human relationship, which could be spoilt by the refusal. Request of an alternative plan is for clearly expressing one's will, which requests the other to present an alternative plan. All the data of the text messages were translated into Japanese and analyzed. The Japanese tend to show their consideration for others in words like presenting aspect or explanation. On the other hand, Koreans tend to use intentionally strong expressions like ordering people to do something. It can be analyzed that the intension is affected by the refusal verbal behavior. Particularly, for Korean's expressing clear intensions like ordering suggests a tendency of the direct speech production. In conclusion, the result can be utilized for Korean Japanese learners to adopt more natural Japanese expressions.